

平成29年10月2日～4日

於・日本学術会議講堂

第175回総会速記録

平成29年10月2日（第一日目）

日本学術会議

目 次

1、開会 午後2時00分	4
1、会長互選及び就任挨拶	6
1、休憩 午後4時21分	19
1、再開 午後4時46分	19
1、前会長退任挨拶及び活動状況報告	19
1、年次報告書の報告	21
1、会員の所属部の決定	23
1、事務連絡	24
1、散会 午後5時09分	25

[開始（午前 11 時 17 分）]

○小林企画課長 それでは、今、ここにおられるべき先生方がおそろいになられているということでございますので、事務的な今回、新たに新会員になりました先生方への御説明会を始めさせていただきます。では、最初に事務局長からお願いいたします。

○山本事務局長 私は日本学術会議の事務局長を今、やっております山本でございます。よろしくお願いいたします。

この後、説明させていただきますけれども、皆様方の任命式等の御出席、御苦労さまでした。どうしましても官邸が絡みますと、こういうふうに日程がこちらの都合のいいように組めないものですから、長時間、お待ちいただいたり、この後も少し時間があきますけれども、そこはいかんともしがたいところでございます、お許しをいただきたいと思えます。また、それぞれ、いろんなところでご活躍の先生方であることは、事務局は十分認識しているんですが、きょうはどうしても集団行動ということでございますので、中学か高校の修学旅行生を扱うみたいになっていて大変申し訳ないんですが、そこも御容赦いただきたいと思えます。それで、この後、小林企画課長の方から説明させていただきます、1 時 20 分の午後の受け付け、そして、2 時から総会まで少し時間があきますけれども、よろしくお願いいたします。

○小林企画課長 では、改めまして企画課長の小林でございます。

事務的な説明を 6 点ほど御説明させていただきます。

まず、1 点目が辞令につきましてでございます、今、官邸で任命式を行いましたけれども、それぞれの先生方の辞令につきましては、今、御着席いただいている席上に置いてあります。もし見当たらないというようなことがございましたら、お近くの事務局職員にお声かけいただければ何とかしたいと思えます。それは多分、ないと思えますけれども、すみません。

それから、非常に事務的な説明が続いて恐縮ですけれども、お昼についてでございますが、この説明が終わりましたら、次の時間割は午後 2 時（14 時）から総会ということで、それまではお昼休みということになります。事前にお弁当を御注文していただいております先生におかれましては、所属される予定の部ごとにお弁当の受渡しを行います。第一部所属の先生におかれましてはこの建物の 5 階、それから、第二部と第三部に所属予定の先生方におかれましては 6 階になりますので、よろしくお願いいたします。この講堂内は飲食禁止になっておりますので、お食事を召し上がる際は 5 階、6 階の部会の会場か、1 階に自動販売機コーナーがありますので、そこで召し上がっていただくことも可能でございます。外に食事にお出かけになる先生方におかれましては、午後 2 時の時間までには必ずお戻りいただければありがたいです。

そして、3点目でございますけれども、午後2時からの総会に関してでございますが、講堂前にテーブルが並んでおりますけれども、そこで受け付けを必ずお願いいたします。これは午後の総会で会長互選の投票を行っていただくわけでございますけれども、定足数の関係で何名、きょう、先生方が実際にお見えになっているのかということをちゃんと記録に残しておかなければいけませんので、午後に必ず受け付けをもう一度、お願いいたします。その場におきまして、会長互選に必要となります投票用紙と番号札もお渡しいたしますので、よろしくお願いいたします。なお、総会中はクロークは開設いたしませんので、荷物の管理などは各自でお願いいたしたいと思っております。

そして、4点目は総会日程の全体の概略でございますけれども、お手元に資料が幾つかあるかと思っておりますけれども、右肩に資料1と打ってある左上1か所とじの資料があるかと思っておりますけれども、表紙を1枚おめくりいただきますと、第175回総会日程という第1日程表という時間割がございます。上から10月2日、きょうです、それから、10月3日、あした、それから、あさっての10月4日の大まかな時間割をここに記載してございます。

その内容でございますけれども、本日午後2時（14時）からの総会におきましては、先ほど申しあげましたように多分、今回、この総会の一番主要な行事となるであろう会長の互選、会長を選出していただきました後、「及び」の次ですけれども、新たに会長に就任されました先生から御挨拶を頂くという予定でございます。そして、休憩を挟みまして、大西前会長から前の期の会長報告ということと、それから、前副会長の井野瀬先生から年次報告ということで御報告を頂く段取りとなっております。そして、その後、会員の皆様方に所属部につきまして採決を行うということでございます。

そして、総会が終わりました後、18時（午後6時）から総理大臣官邸大ホール、先ほど任命式でお運びいただきました同じ場所におきまして、懇談会を予定しておりますので、総会は17時ごろを目途に終了いたしまして、再びバスに乗りいただきまして官邸へ向かっていただくという予定でございます。

そして、5点目でございますけれども、午後の総会の会長互選につきましては、お手元の資料の後ろの方になるかと思っておりますけれども、会長互選手続概要という資料をお配りしております。これは両面刷りになっているかと思っておりますけれども、詳しい手続はまた午後の総会が始まりますときに詳細はご説明を差し上げますけれども、スライドに映し出すものと同じものをプリントアウトして、今、お手元にお配りしておりますので、お昼休みなどお時間があるときに事前に目を通していただければありがたく存じます。

それから、最後に6点目でございますけれども、総会が終わりました後の官邸での懇談会についてでございますが、17時ごろを目途に再びバスに乗りまして官邸での懇談会へ向かっていただくこととなります。同じように係員が誘導いたしますので、指示に従っていただければと思います。けさ方と1点異なりますのは、夕刻の官邸での懇談会へ出発した後は、きょうはこの建物には戻ってまいりませんので、お手数ですけれども、荷物など

は全てお持ちの上、バスに御乗車いただきまして、ただし、夕刻の官邸での懇談会では官邸の中にクロークを用意してありますので、荷物をそこに預けてから懇談会の会場に臨んでいただくということは可能でございます。その際の名刺などの出し入れのお忘れなどは御留意いただければと思います。

重ねてでありますけれども、本日の懇談会は、現時点での予定では総理も時間のさまざまな予定もあるんですけれども、現時点では出席予定ということですので、18時間厳守で開催するという見込みでありますので、スムーズな乗車などに恐縮ながらお願いいたします。それから、官邸内は大ホール以外での写真撮影が禁止されておりますは午前中、バスの中でも申し上げたとおりでございます。

事務的な説明が続いて恐縮でありましたが、説明は以上でございます。

何か御質問があれば、この場でも後ほど事務職員に声をかけていただいても結構でございますので、よろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

○山本事務局長 特にこの場で何かございますか。なければ、大変恐縮なんですけど、少し時間があきますけれども、しばらく休憩ということにしたいと思います。よろしくお願い致します。

○小林企画課長 では、総会は午後2時からでございますので、重ね重ね大変恐縮でございますけれども、そのときに受け付けで定足数を事務屋が、私も事務屋なんですけれども、数えますのでよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

[昼 休 憩]

[開会（午後2時00分）]

○小林企画課長 それでは、これより日本学術会議第175回総会を始めさせていただきます。

議事の進行ということでございますけれども、本日の出席会員の皆様の人数でございますけれども、現時点で164名ということで、この後、おくれてこられる方もおられるかもしれないけれども、現時点で164ということで、既に定足数に達しております。

では、この後の議事進行は事務局長の山本からさせていただければと思います。まず、定足数の御報告をいたしました。

○山本事務局長 日本学術会議の事務局長の山本でございます。

総会の議事は、通常の場合は日本学術会議会則第18条第1項の規定によりまして、会長が務めるということになっておりますけれども、本日の場合、会長がまだ決定しておりませんので、日本学術会議事務局組織規則第1条第3項の規定によりまして、事務局長が臨時に会長の職務を行うということにされておりますので、会長が選出されて休憩をとるまでの間、私が議長を務めさせていただきます。どうか御協力ほどをよろしくお願いいたします。

それでは、本日の配布資料の確認を出させていただきます。資料の一番上にごございます第175回総会配布資料一覧というのを御覧ください。御覧いただきまして、もし足りない資料がございましたらお近くの職員にお知らせください。よろしいでしょうか。資料2と、それから、互選にかかわる机上配布資料につきましては、本日の総会散会後は回収させていただきますので、机上に置いたままにしておいていただければと思います。よろしくお願いいたします。

なお、資料につきましてはあした午前の総会終了までは、ここの卓上に置いたままにすることも構いません。なお、参考配布以外の資料につきましては、事前にネット上の会員・連携会員の掲示板にも掲載しておりますので、そちらも御活用いただければと思います。

また、本日、受付で投票用紙と番号札をお渡ししております。これがないと、この後の会長互選で使用いたしますので、もしお受け取りになっていらっしゃらない方がいましたら、至急、受付で受け取っていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、この後の総会日程について御説明いたします。お手元の資料1のところをめぐっていただいて見ていただきたいと思いますが、第175回総会日程ということでございます。この後、皆様方の最初の仕事であります会長互選がございます。

本日の日程のみをあと、紹介いたしますが、これから最初に互選を行い、会長を選出させていただきました後、新会長に就任の御挨拶を頂きます。休憩を挟みまして、大西前会長による前期の会長報告、続いて前期の副会長の井野瀬先生の方から年次報告書についての報告がございます。その後、会員の所属部についての採決を行います。総会が終わりました後、6時から総理大臣官邸大ホール、そちらの方で懇談会が予定されております。ですので、総会は5時ごろをめでに終了して、その後、バスで官邸へまた移動していただくこととなります。

いろいろ立て込んだ日程でございますが、皆様方、御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

あしたとか、明後日の日程につきましては、お手元の資料を御確認いただければと思います。総会期間中の会議室については、お手元の参考資料4の方でございます。また、玄関でございます電光掲示板の方にも表示いたす予定でございますので、御不明な点等がございましたら、事務局職員にもお尋ねいただければと思います。

なお、資料1の7ページでございますけれども、日本学術会議関係者の慶弔関係で1点、御紹介いたします。弔事でございますけれども、前回の総会以降でお亡くなりになられた

方が1名いらっしゃいます。御逝去の報に接しまして、謹んで哀悼の意を表したいと思います。

[会長互選及び就任挨拶]

○山本事務局長 それでは、会長の互選の方に移りたいと思います。

新会長は、今期第24期の会長となりますので、会長としての任期は24期末であります平成32年9月30日までということになります。

細かい互選手続について小林企画課長の方から説明いたします。

○小林企画課長 企画課長の小林でございます。

お手元にお配りしました資料のうち、参考2という資料、A4両面刷り左上1か所とじて右上に参考2と書いてある資料があると思いますけれども、これは日本学術会議の会長互選に関する関係法令を抜粋したものでございます。これによりますと、日本学術会議法第8条に会長互選に関する規定がございまして、その第2項で会長は会員の互選によって、これを定めるとしてございまして、同条第4項で任期、それから、再選に関する規定をあわせて規定しているというつくりになっております。

そして、具体的な互選の方法でございまして、日本学術会議の規定、これは細則ということで参考2ですと18ページ目になるわけでございますけれども、細則の2条2項におきましては、総会に出席した会員の投票、現に出席しておられる会員の投票により行うという意味内容のことが規定されているということでございます。そして、今回の互選のための資料でございまして、会員の皆様に事前に電子媒体でお送りしてございまして、本日は机上配布資料に沿って概要のみ、ポイントのみ御説明させていただければと存じます。

では、スライド1の投影をお願いいたします。皆様方のお手元には今、映し出している画面上のものをプリントアウトしたものを午前中の御説明でも言及いたしましたけれども、会長互選手続概要というA4縦両面刷りで、今、スライド1というものが投影されておりますけれども、スライド1から4までをツーアップで縦に印刷したものがお手元にあるかと思っております。

このスライド1、今、画面にも出ておりますけれども、24期の会員名簿に掲載された方の中からお一方に投票していただくということでございます。そして、その投票の結果、投票者数の過半数の票を得た方を会長候補者ということで選出いたします。一方、過半数の票を得た方がいない場合は、再度、投票を行うということになります。そして、これを繰り返すわけですが、ずっとやっているわけにもいきませんので、3回投票を行っても過半数の票を得た方がいない場合、3回投票しても過半数を獲得した方がいない場合は、4回目は3回目の投票における上位の得票者2名の方の要は決選投票です、ですので、

4回目には必ず決まるはずであるということでございます。そして、選出された会長候補者に会長の職におつきになっていただく御意思があるかどうかを御確認いたしまして、御承諾いただければ会長に御就任いただくという段取りになっております。

では、次のスライドをお願いいたします。スライド2でございます。記入例でございます。開票に正確を期するため、楷書体での記載をお願いいたします。それから、同姓の名字が同じお方が複数名おられる場合が今回もありますので、フルネームで御記入ください。また、振り仮名も付していただきますようお願いいたします。それから、目の前に集計用機材などを並べておりますけれども、時間の節約のために投票用紙は折り曲げずに投票箱の中に投入していただければ、事務としてもありがたい次第でございます。

それから、次のスライド3をお願いいたします。スライド3は無効票になり得る例、要はよくない記入例ということでありまして、例えばお二方の名前を記載した場合でありますとか、あと、名簿に載っていない方の名前を書いた場合、これは当然無効です。それから、氏名以外のほかに投票に関係のないようなことを記載した場合ということで、上段の左の真ん中あたりですけれども、投票には関係のない模様とか、記号などを書くと無効になり得るということでございます。あと、(4)(5)は自明のことでございますけれども、自分でお書きにならなかったとか、そもそも、判読不能である場合というようなことを説明的に追記してございます。

それから、次のスライド4をお願いいたします。これは実際に投票用紙を御記入いただきました後、係員が誘導いたしますけれども、一部、二部、三部となっております。通路が2本ございますので、そこに集まっていた後、こっち側におりてきていただいて、そこに四角い投票箱がありますので、そこに投入していただき、お席にお戻りになるときは両脇の③と朱書きでなっておりますけれども、両脇を通してそれぞれのお席に戻っていただくということを模式的に示したスライドでございます。

私からの説明は以上でございます

○山本事務局長 ただいまの説明につきまして何か御質問はございますか。よろしいですか。

それでは、投票に入ります前に、あらかじめ会員の皆様方にお諮りして確認しておきたい事項が2点ございます。まず、1点目ですけれども、おくれて議場に来られた会員の方の扱いですけれども、投票箱を閉鎖するまでの間の投票は認めるということにしたいと思っております。そして、2点目でございますけれども、異なる回の投票用紙、つまり、指定と違う色の用紙を用いた場合は無効票ということにいたしたいと思っております。御異論はございませんでしょうか。よろしゅうございますか。

なお、会長互選の立会人は事務局長だということになっておりますので、その点も御了解いただきたいと思っております。

それでは、これより1回目の投票に入ります。

〔投票用紙配布〕

○山本事務局長 使用する投票用紙は白色でございます。お間違えないようお願いいたします。白色の投票用紙はお手元でございますか。ない方々は至急連絡ください。よろしいでしょうか。

それでは、記入の方をよろしくお願ひします。

〔投票用紙へ記入〕

○山本事務局長 事務局スタッフが投票箱の中をお見せしますので、投票箱の中に何も入っていないということを御確認ください。

○小林企画課長 今、事務局のスタッフが投票箱の中に何も入っていないことをお示しております。御確認をお願いいたします。御記入いただく時間は1～2分をとっておりますので、また、お声かけするまでは記入に専念していただければと思います。

あと1分ほど、時計の時刻で14時15分になりましたら、投票の開始をお願いすることになると思います。

では、皆様、御記入の方はよろしいでしょうか。

それでは、投票に当たりましては先ほど申し上げましたように、中ほどの通路が2本ございますので、スクリーンに向かって係員が順次、誘導いたしますので、真ん中にある市角い投票箱の中に投票用紙の投入をお願いいたします。それでは、お持ちいただくのは黄色い番号札1枚と1回目の投票用紙、白の投票用紙を1枚、都合2点、お持ちいただきまして投票の開始をお願いいたします。事務局スタッフの誘導に従いまして順番に投票いただければと思います。

それでは、係員の方、誘導をお願いします。先生方は通路の方に向かって、順次、立ち上がっておりていただければと思います。職員に番号札を渡した後に、投票用紙を四角い木の箱に入れていただくという段取りになります。まず、最初に職員がプラスチックの番号札を受け取ります。

〔投票〕

○山本事務局長 皆様、投票はお済みでしょうか。投票はお済みですね。

それでは、全員投票したということと認めまして、ただいまをもちまして投票箱を閉鎖いたします。

〔投票箱閉鎖〕

○山本事務局長 それでは、これから開票作業を行います。この開票作業は、二、三十分ほどかかりますので、あらかじめ恐縮ですが、御承知おきください。

○小林企画課長 それで、今、係員が皆様方に投票していただいたものを集計いたしまして、その集計結果はスクリーンに映し出しまして皆様に御確認いただきます。それに要する時間が今、局長からもお話がありましたけれども、20分ぐらいということでありますので、よろしく願いいたします。なお、全く席を微動たりともしてはいけないという趣旨ではありませんので、常識の範囲内で周囲の先生方と情報交換なりをしていただくことは結構であるかと存じます。よろしく願い申し上げます。

〔開票〕

○小林企画課長 今、画面に映し出します表に数字を入力しておりまして、間もなくスクリーンに投影できると思いますので、いましばらくお待ちいただければと思います。

今、表示いたしますけれども、機材の都合上、スイッチを入れてから画面上に投影されるまでに1分ぐらい時間を要するようですので、すみません、投影動作を始めてください。スイッチオン。

それで、お待ちいただいている間に説明しますと、得票した票がエクセル表なんですけれども、ここに投影されまして、その全てをまずスクロールで全部、皆様方に御覧いただきます。そして、上位の方について局長から説明といいますか、表の何々さん何票といった趣旨の……出ましたので、では、まず全体のスクロールをお願いします。

○山本事務局長 では、御覧のとおりでございますが、1回目の投票結果は御覧のとおりでございますして、投票総数が169、過半数は85でございますして、最も多いのは山極壽一先生の57票でございますが、これは過半数でございません。

従いまして、規定によりまして第2回目の投票ということになります。投票の方法は、先ほど行っていただいたのと同じやり方でございますが、今回は別の投票用紙になりますので、2回目の投票用紙は青い色、ブルーの投票用紙になります。青色の投票用紙はお手元でございますでしょうか。ない方がいましたら挙手を願います。よろしいですか。

それでは、どうか御記入のほどをお願いいたします。

〔投票用紙へ記入〕

○山本事務局長 青色の投票用紙の記入は、皆様、お済みでしょうか。

一つ確認を忘れました。事務局のスタッフが投票箱の中をもう一回、お示しいたしますので、何も入っていないことの確認を見てください。よろしゅうございますか。

それでは、前回と同じように投票を行いますので、番号札1枚と青色の2回目の投票用紙1枚をお持ちになりまして、順次、投票をお願いいたします。

〔投票〕

○山本事務局長 皆様、投票はお済みでしょうか。よろしいですか。

それでは、投票が終了したものと認めまして、ただいまから投票箱を閉鎖いたします。

〔投票箱閉鎖〕

○山本事務局長 また、開票作業を行いますのでしばらくお待ちください。

〔開票〕

○山本事務局長 間もなく開票結果が出ますので。

○小林企画課長 第2回目の投票の結果を今、画面上に映し出しておりまして、今、スクロールをしております。全部、スクロールし終わりましたら上位のところに画面を戻してください。

これが第2回目の開票結果でございます。投票総数が171、有効票と無効票の数はそれぞれ括弧書きで示してございます。そして、86票以上で過半数ということでございますので、今回の投票結果に関しましては、一番上にお名前が記載されておられます山極壽一先生が獲得総数109票ということでございますので、規定によりまして山極壽一先生が会長の候補者となられたということでございます。

○山本事務局長 ということでございます。

規定によりまして会長の職につく意思がある場合に、会長となるという規定になっておりますが、山極先生はいらっしゃいますか。お引き受けいただけますでしょうか。

○山極壽一会員（第二部） きょう、やってくるのではなかったなと思っております。大変心苦しいのでございますけれども、私は今、京都大学の総長、そして、国立大学協会の会長を務めております。三つ目の非常に重要な職につくということは、私の体力、気力上、非常に難しいと今、改めて思っているところでございます。大西会長の獅子奮迅の働きを見ておりますと、私は国立大学協会では副会長で御一緒させていただきました。大変な

これは仕事でございまして、皆様の御期待に沿うことができそうにございません。これだけのたくさんのお票を頂きながら、こういうことを申し上げるのは大変心苦しいのでございますけれども、できれば辞退させていただきたいと思っております。本当に光栄だと思います。ありがとうございました。ただ、これは本当に荷が重過ぎると思っております。

○**小林企画課長** ただいま、山極先生からお話がありましたように、会長につく御意思はないということであるということが確認されたということでありまして、この後の手続でございまして、3回目の投票ということになりますので、手続的には、今、行っていただきました1回目と2回目の投票を、候補者の中から山極先生を除いて投票することです。第3回目の投票を行いますけれども、今度、御投票になられるときは山極先生は対象とはせずに、投票していただくという手順を踏むことになります。そしてまた、3回目の投票によってまた枝分かれしていくわけなんですけれども、それはまた、そのときに御説明を申し上げたいと思っております。

以上でございます。

○**山本事務局長** ということでございますので、3回目の投票ということになります。今度は黄色の投票用紙で行います。黄色の投票用紙はお手元にありますでしょうか。ない場合は挙手を願います。

それでは、記入の方をよろしく願いいたします。

あと、今、投票箱の確認を御覧いただければと思います。

〔投票用紙へ記入〕

○**山本事務局長** 皆様、記入はお済みでしょうか。

ただいまから投票をお願いします。係員の誘導に従いまして投票の方をよろしく願いいたします。

○**小林企画課長** それでは、係員が誘導いたしますので、3回目の投票をお願いします。

〔投票〕

○**小林企画課長** それでは、皆様、投票はお済みでしょうか。第3回目の投票をまだ済んでおられない方はおられますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、現時刻で投票箱を閉鎖します。閉鎖してください。

〔投票箱閉鎖〕

○小林企画課長 では、集計作業の開始です。

〔開票〕

○山本事務局長 皆様、御覧のとおりでございまして、第3回目は171票であります
が、過半数は86票でございます。最多数は梶田先生でございますが、過半数に達して
おりません。したがって、規定によりまして第4回目ということになります。

4回目につきましては3回目の投票におきます上位の投票者お二人、これでいきますと、
梶田先生と向井先生のお二人による決選投票ということになります。投票用紙にはお二人
の先生のうち、いずれか1名のお名前を御記入ください。それ以外の方のお名前をお書き
なりますと無効ですので御注意願います。今度の決選投票は赤い色、レッドでございま
すので、投票表紙もお間違えのないようお願いいたします。

○松浦純会員（第一部） 第一部の松浦といいます。決して時間を引き延ばしたいわけ
ではありませんけれども、規定を読み直しますと、辞退があった場合に前項の互選を再度
行うとありまして、前項というのは2項全体ですから、今の投票は第3回ではなくて第1
回になると考える方が自然な読み方だと思いますので、確認をお願いします。

○山本事務局長 率直に申し上げまして、今の御指摘の方が正しいかと思っておりますので、
配ってある紙が決選投票となっておりますけれども、それをそう読まないで、すみません、
2回目ということになりますかね、2回目という扱いで、その先に更に必要な場合はまた
紙を配りますのでよろしくをお願いいたします。

○佐野正博会員（第一部） 今の件ですと、19ページの規定では第4項で第3項の規
定に関して必要な事項は幹事会が定めとなっておりますので、幹事会には定めというの
はないということが確認されたという理解でよろしいのでしょうか。

○小林企画課長 企画課長でございますけれども、諸規定に関しましてもう一度、整理
のために御説明を申し上げますと日本学術会議細則、お手元の参考2ですと19ページ、
会長の互選に係る規定が第2条、18ページから19ページにかけて掲げられておりまし
て、19ページの上から4分の1のところから第2条第3項というのがございます。そして、
この3項におきまして読み上げますと、会長の候補者は会長の職につく意思がある場合、
会長となる、会長の職につく意思がない場合は前項の互選を再度行うということで、第2
項、18ページの下から3分の1のところに記載がございますけれども、会長の互選は総会

に出席した会員の投票により行うということで、第1回目からのサイクルがもう一度、もとに戻って繰り返されるという趣旨の規定が第2項において定められているところでございます。

そして、第2条第4項におきまして、前3項の規定に関し、必要な事項は幹事会が定めるとなっておりまして、これに相当いたします幹事会決定は会長の互選に関する幹事会決定ということで、参考2には掲げられておりませんが、法規集の中で今、持ってまいりまして何が定められているかということ、幹事会で定めている決定事項は全部で三つございまして3条から成っているんですけれども、第1条は無効投票について、先ほど御説明しましたような2名以上の氏名を記載した場合などについての規定が第1条、それから、第2条では同一の氏名の者に対しまして得票が有効であるか、そうでないかということの規定するカウントの仕方、これが二つ目でございます。そして、第3条、三つ目は立会人についての規定でありまして、事務局長を立会人とするということでありまして、要は現状、今、何を申し上げようとしたかといいますと、もとに戻りまして、細則第2条第4項に規定されております前3項の規定に関し、必要な事項は幹事会が定める定めの中には、今、申し上げた三つしか規定がないという状況でございますので、ということからして、今のような状況の場合は再度、サイクルを、要は第1回目の投票からもう一度、やり直すということになるという考え方でございます。

何か補足があれば。

ですので、今、この時点の状況を申し上げますと、今、もう一回、最初からやり直すことになったサイクルの1回目の投票の結果が今、画面上に出ているものですということで、これから投票をお願いするのは第2回目、新たな第2回目というのかもしれませんが、第2回目の投票を行うということでございます。ただ、投票用紙は、このような経過をたどっておりますので、要は決選投票用の赤い投票用紙しか多分、今、お手元に残っていないと思いますけれども、それは無視していただいて、新たな2回目の投票用紙であるというふうに御理解いただいて投票していただければと思います。

以上でございます。

○**会員** よろしいでしょうか。決選投票と言われてしまったので、上位2名の方のどちらかを書いてしまったんですが、斜線を引いてもよろしいのでしょうか。

○**小林企画課長** 今、この時点で予備のものを配り直すあれはありませんので、ないですね、ある、ないですね。ある。では、きれいなものに差しかえさせていただきます。予備を配らせていただきます。

〔投票用紙配布〕

○**小林企画課長** お手元に投票用紙がない方は、今、職員が予備の投票用紙を配っております。重ねてでございますけれども、新たなサイクルの2回目の投票ということで、必ずしもこの上位2名の方に捉われることなく、投票していただくということになります。

○**山本事務局長** では、準備が整ったかと思しますので、新たなサイクルの2回目ということでございます。すみません、特に決選投票ではございません。2回目ということでお願いいたします。御記入の方をお願いいたします。

〔投票用紙へ記入〕

○**山本事務局長** 投票箱の確認をお願いいたします。

御記入はお済みでしょうか。それでは、この後、皆さん、投票の方をよろしくお願いいたします。

〔投票〕

○**山本事務局長** 皆様、投票はお済みでしょうか。大丈夫ですか。

〔投票箱閉鎖〕

○**山本事務局長** それでは、これから開票作業の方に入ります。しばらくお待ちください。

〔開票〕

○**山本事務局長** 御覧のとおりでございます、今回も過半数を得られた方はおられません。したがって、再度、また投票をお願いすることになります。便宜、次の投票につきましてはお手元にあります投票用紙の再決選という用紙がありますが、これを使って書いていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

それでは、御記入の方をよろしく申し上げます。

〔投票用紙へ記入〕

○**山本事務局長** 皆様、御記入はお済みでしょうか。

それでは、投票を行いますので、また順次、よろしくお願いいたします。

〔投票〕

○山本事務局長 投票はお済みでしょうか。よろしいでしょうか。

〔投票箱閉鎖〕

○山本事務局長 それでは、投票は終了したものと認めまして、ただいまから開票作業に入ります。

〔開票〕

○山本事務局長 皆様方の御覧のとおりでございまして、これでいきますと、この後、決選投票ということになりますけれども、梶田先生と向井先生ということでやることになりますけれども、よろしいでしょうか。

向井先生から御発言がございます。

○向井千秋会員（第二部） 決選投票までいかせていただき本当にありがたいことですが、私は会長の重責を3年間担う自信がないので、この時点でぜひ辞退をさせていただければと思います。申し訳ありません、お役に立てずに。

以上です。

○梶田隆章会員（第三部） そうしたら、梶田の方からも一言、言わせていただけないでしょうか。私はこれから会員になるところで、まだ、学術会議が何なのか、知らないところでいきなり会長はとてもできないですし、あと、實際上、少なくとも例えばこれから半年でも予定が全部詰まっただけという、そういう状況でとても今、会長をやれるような状況ではないということもありまして、私もこれは受けられないというのが正直なところなんです。

○小林企画課長 企画課長でございまして、今、御発言になられましたお二方の先生方を踏まえて、2点、飽くまで事務手続上のことということで申し上げますけれども、1点目は確かに諸規定上は、3回目で決まらなかった場合は上位お二方のというのが諸規定上、決まっておりますけれども、飽くまでこれは学術会議の先生方がお決めになることでありまして、最高の意思決定機関はまさに総会でありますので、今回のような今の現状を踏まえてどうされるのかというのは、事務的に諸規定を説明しろということであれば、今、私が申し上げたことになりますけれども、今の現状を踏まえてどうされ

るのかというのは、別のありようもあるのではないかとということが1点目でございます。

それから、2点目でございますけれども、会長職の現状というのを申し上げますと、実は会長がこの後、お決まりになられた後に事務屋から説明しようと思っていることの一つに、この後、すぐ国内外の国際会議、特に国際会議などにすぐに御対応いただくという状況がございまして、そういったことなども勘案して、飽くまで事務的な説明ということにとどめますと以上でございます。

○甲斐知恵子会員（第二部） 3番目の甲斐でございます。私もすごく予定が詰まっておりますので、このままいくと、投票で選ばれた先生が次から次へと辞退されて、いつまでも終わらないということになるのではないかと危惧いたします。みんな、大変お忙しい先生方でお受けするのは苦しいと思うんですが、これは仕方がないから山極先生が受けるしかないのではないかと、私は思います。（拍手）

○小林企画課長 山極先生、何かお考えがあればマイクを今、事務の者がお回しすべく、そちらに向かいます。

○山極壽一会員（第二部） やっと免れたと思っていたんですけれども、ただいま、梶田先生、向井先生、甲斐先生からなかなか難しいという御意見を伺いました。この学術会議というのは非常勤ですから、本務を皆さんはお持ちなわけですよ。既に梶田先生がおっしゃるように、これから半年先の予定が決まっていると、一方ではそういうことがあり、私自身もほとんど予定が詰まっています。そういう中で、やりくりをしながら日本学術会議の方向性を定めていくというのは、恐らく会長だけではできないことだろうと思います。そのために3人の副会長が選任されて、集団体制で執行部を支えるということが行われてきたんだと思いますけれども、それも含めて考えなければいけないかなと今は思っています。ということです。（拍手）

○山本事務局長 事務局の方としてはお受けいただきたいと思いますが、お受けいただけますか。副会長等々のことは今、お話がありましたけれども。

○山極壽一会員（第二部） できるだけ、私の方からこう申し上げるのは何ですけれども、会長のかわりになっていただける方を、私の方が指名できるんですよ。

○山本事務局長 そうです。

○小林企画課長 あしたの午前中の総会におきまして、新たに会長になられました方が副会長3名の方をその担務と共に指名するという手続でございます。

○山極壽一会員（第二部） 私はあした、欠席予定でございまして、本当に全て予定が詰まっているという状況なんですね。本当に困ったものだと思っておりますが、ここにいらっしゃる皆さんに次期会長はなかなか時間をとれない立場にあるということを御理解いただき、少しわがままを許していただけるならば、微力ながら努力はいたします。（拍手）

○山本事務局長 それでは、恐縮なんですけれども、壇上の方にお越しいただけますでしょうか。

それでは、新会長から御挨拶いただきます。

○山極壽一会員（第二部） 全く予定しておりませんでしたので、挨拶も考えておりませんでした。この3年間、会員として働かせていただき、何回か総会にも出席させていただき、会長を初め副会長の御報告をお聞きしながら、日本学術会議は随分、最近、忙しくやっているなど思うようになりました。それで、ずっと腰が引けていたんですけれども、先ほど申し上げましたようにたくさんの票を頂いて、皆さんの御期待が私に集まっているということを痛切に感じました。

ただ、申し上げましたように、今、本当に学術は大転換のときにきています。昨日、実はSTSフォーラムというのが京都でございまして、大学の役割というところで林文科大臣と一緒に壇上に上がりまして討論いたしました。ここにおいでの方々も何人かは御出席なさったと思います。世界中で学術というのがこれからどういう方向に進むのか、どういう力を持つべきなのか、国際的にどういうふうな協力ができるのかということが討論されております。私も京都大学の学長として、さまざまな会議にこれまで出させていただいて、日本ばかりではなくて、さまざまな国が同じような問題を抱えているということを痛切に感じました。

これは大学だけではなくて学術そのもの、学術だけでなく政治的な経済的な動きが大変今、加速しておりまして、その波に洗われて学術というものが非常に狭くなっているという気がします。とりわけ、これはこれから日本の将来を、あるいは世界を担っていく若者たちがどういうふうに学問の世界を見つめていくのかということにかかわる問題です。我々はそれに対して大きな責任がある。模範を示せとは言いませんが、少なくとも今の世界の日本の若者たちに大きな夢を与えるようなことをしていかななくてはならないし、なおかつ、彼らにとって大きな目標というものを幾つかつくらなければならないと思います。

前執行部は、大西会長を初めとして随分難しい問題に挑戦していただきました、原発問題とか、軍事と学術の問題とか。私も軍事と学術の問題には委員として出席させていただいて、これは随分難しい立場に研究者や学術に携わる者は立たされているなど思いました。とりわけ、マスコミ、社会、政治、そういったものはざまに立って、我々は常に意見を言わなければならない立場にある。それが必ずしもその真意が伝わっていかないという現

状があります。

そのときに我々は、一致して何が言えるのかということのを常に考えていかななくてはならないと思います。日本学術会議が一部、二部、三部とあるのは学問分野だけではなくて、これまでさまざまな学術の違う文化に育ってきた人たちが一堂に介して、学術というものをきちんと練り上げていく、日本の常識あるいは日本の進むべき道をつくっていくことをする場を日本学術会議は持たれているということだと思います。自分の専門分野に閉じこもらずに、他の領域と大いに意見を交わしながら、自分の意見だけを主張するのではなく、多くの意見を取りまとめながら、世の中に対してきちんとした提言をしていかななくてはならないだろうと思います。

私もこの場で発言させていただきましたけれども、日本学術会議というのは文部科学省に属しているわけではなくて内閣府に属しています。ですから、日本の政治機構の中の違う場所にあつて、きちんとした意見を文部科学省の外で言える。これはすごく大きな強みだろうと思います。弱みかもしれませんが、そこをどうやって我々はきちんと利用しながら、今は非常に政治が強くなっていますから、学術というものの自律性、そして、学問の自由というものを主張していけるのか。これは正念場だと思います。

きょう、私は最初にお断りさせていただきましたが、こうしてここに立たせていただいたのは、私の弱い立場を十分御理解いただき、支えていただきたいということでございます。本当に先ほど申し上げましたように、今、私は一大学の総長という立場と国立大学協会の会長という、これは6月になったばかりですので、まだ、2年あるんですね。ですから、完全に重なってしまいます。その三つの業務をこなせるかどうか、全く私は確信がございません。ですから、皆さんの積極的な関与と、そして、お一人お一人が少なくともきちんと日本学術会議の会員として会長と同じぐらい、あるいは会長を超える力強い発言をしていただきたいと思います。皆さんの御意見があつて、初めて日本学術会議の大きな力が結集できるわけですから、そのことを切にお願いして、これは条件闘争ではないですから条件ではございませんが、ぜひ、よろしくお願いをしたいと思います。

私も自分の予定をこれから調整していかななくてはなりませんけれども、すき間がないぐらいびっしり詰まっております。ですから、多分、いろんな代理を立てなくてはならないだろうと思います。副会長の先生方だけでなく、皆さん、一人一人が日本学術会議を代表して意見が言える立場であつていただきたいというふうをお願いをして、私の御挨拶とさせていただきます。お願いばかりでまことに申し訳ございませんが、よろしくこれからお願いいたします。(拍手)

○山本事務局長 どうもありがとうございました。

それでは、ここで若干、休憩をとりまして4時35分から再開をさせていただきます。よろしくお願いたします。

[午後 4時21分休憩]

[午後 4時46分再開]

○山極会長 それでは、皆さん、お時間を使わせてしまいまして申し訳ございませんでした。会議を再開させていただきます。

[前会長の退任挨拶及び活動状況報告]

○山極会長 最初に、大西前会長から御退任の御挨拶及び第23期の活動について御報告を頂きます。大西会長は、第22期、第23期の2期6年間にわたり、日本学術会議会長を務めていただきました。それでは、よろしくお願ひします。

○大西隆前会長 バトンタッチする相手が見つかって本当にほっとしています。皆さん、大変お疲れさまでした。御苦労さまでした。

6年前、私は選ばれたわけですが、確定しましたので少しお話をさせていただくと、少しやってみてこれはとても大変だと。当時、私は一教授、教員でありましたが、自分のところの研究課長に辞表を持っていきまして、大学をやめざるを得ないと言ったら、研究課長が、いや、待てと、あなたに准教授を一人つけてあげるから、大学には来なくていいと言われて、それで何とか務まったという感じがいたします。その後、2期目は東京以外に職場があつて、大学の学長を務めてきたわけですが、山極先生の京都よりも1時間、東京に近い、かつ運営費交付金でいうと京大の15分の1ですから、少し遠くにあつて巨大な組織の長を務めておられる山極先生はさぞ大変だと思います。

歴史を振り返ると第2代の学術会議の会長が茅誠司先生でした。茅誠司先生は2期を務める予定だったんですが、2期目の途中で東大の総長に選ばれたのでおやめになったんですね。ネガティブな話ばかりしてはいけません、なかなか、大変な仕事であると。しかし、私は先ほど山極先生がおっしゃいましたけれども、正直なところ、山極会長にしかできない仕事があると、今、それが山極会長を待っていたというふうに思っています。それは先ほど山極先生がおっしゃったように、我が国の学術の再興という、いろんな意味で皆さん、認識されていることだと思いますけれども、非常に大きなテーマに学術界を挙げて挑戦しなければいけない、日本学術会議はその先頭に立つという役割を担わなければいけないと思います。これは私は山極新会長だからこそできる仕事だというふうに思っておりますので、会員全員が支えていただいて山極体制が大きな成果を上げることを期待したいというふうに思います。

改めておめでとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。(拍手)

それで、時間が結果としてかなり押しておりまして、私は15分頂いていたんですが、

5分でやれということなので、ごくはしょって要点だけ申し上げます。まず、最初に私が6年間の間にやったことが2点、要約するとあります。そこについて紹介させていただきます。

3ページのスライドですが、一つは学術会議は、実は私が担当した6年前に危機にあると言われていました。独立行政法人化される計画もあるということだったわけです。いろいろ、図って、これは今のまま残るということが重要だということで、結果としてその後、残るということが、現体制を続けるということがはっきりしたと。国際的に見ると、これは少し特殊な体制です。つまり、政府の一機関であるわけです。しかし、議論するテーマあるいは会員の人选等について独立性を持っているということで、独立性を発揮しながら、しかし、政府の一員にあるという、このことを続けたわけですので、このことの意味をそれぞれの会員の方が認識しながら、あるべき方向を探っていただきたいと思います。

二つ目に私が力を入れたことは、会員のバランスであります。きょうも女性会員の方がたくさん見えていますが、2005年に法改正がありましたけれども、それまで女性は第19期で6.2%にとどまっていたのが現在は第24期、皆様の期は32.9%、約3分の1が女性会員になったということでもあります。したがって、会員のバランスが大きく変わったということです。地域バランスもやや改善されました。お手元の抜き刷りでは見にくいかもしれませんが、真ん中あたりに関東の割合というちょうど赤で丸をしたところ、従来、19期までは約3分の2の会員が関東であったものが、今、その比率が下がったと。ふえたところは少し偏って近畿がふえておりまして、山極新会長を支えるのにはよかったのかなと思っています。より全国に会員が分布するということが重要なことだと思います。

次のスライドからは23期の自慢話ですので、ここは飛ばさせていただきます、24期にどうしても引き継いでいただかなければいけないことをお話して閉じたいと思います。

まず、ICSUとISSCの合併を促進するという件があります。特に学術会議としては、この合併が実った暁に来年ですが、新組織の設立総会を今、福岡で開催するという提案をしています。このための誘致、それから、もし誘致に成功したら、その実現というテーマがあるということでもあります。

二つ目が財務問題。23期も会員の方は経験済みですが、学術会議の予算、これは政府の予算ですから決まっています。寄附を外からもらうことはできません。この中でやるということで、活動が活発になればなるほど財政が逼迫するということなので、ビデオ会議をやるとか、場合によっては暫定辞退をすとかいう工夫が要ると。新しく導入したのは計画的な予算管理であります。ぜひ、こういうことについても、これまでの経験を生かしてうまくやっていただきたいと思います。

それから、もう一つ学術会議の事務局の一部移転という問題がございます。これは30年来の懸案でありましたが、方向を前期に出しました。現在は会長室と事務局長室を中心とした事務局の一部、見方によってはヘッドクォーターです、しかし、活動の本体はこうして総会をやったり、あるいは委員会をやったりするわけですので、その本体はこのビル

を使おうと。ただし、見方によってはヘッドクォーターという会長室、事務局長室を移転する。きょうの決定を踏まえれば、京都に移転するのが最適ですけども、今、政府との間では横浜という地名が出ています。したがって、横浜という地名が出ているということ踏まえながら、これに対処していくということが求められるということでございます。

最後から2番目に、会員選考についてお話しいたします。会員選考についてなかなか難しい問題があります。つまり、会員の任命は、皆さん、きょうは官房長官から辞令を受け取ったと思いますが、内閣総理大臣の名前になっています。総理大臣が任命者ということです。推薦は学術会議がするということで、場合によってはその二つ、推薦と任命したいというところが対立するおそれもあるということでもあります。ここについてどう対処していくのか、私は丁寧に任命者に説明をすると、学術会議のルール、それから、学術界の状況について説明して、我々の推薦を認めていただくということが大事だと思って努めてきましたけれども、デリケートな問題がここにもあるということでございます。

最後に、これも2005年の法改正以降の懸案ですが、学協会との関係、今はコープテーションですので学協会との間が少し疎遠になっている面があります。しかし、多くの学術の活動は学協会をベースに行われておりますので、この6年間の間に学協会との連携を強めてきたと思っています。この点についても留意していただいて、学協会と一緒にさまざまな活動をする機会をできるだけふやしていただきたいというふうに思っております。

これらについては、また、必要に応じて、これまでの経験について詳しい前会員等がおりますので、説明させていただくような機会があればと思いますけれども、ぜひ、こうした点でバトンを受け取っていただいて、これは会員全体にお願いしているわけでありませけれども、24期がより学術会議の発展に貢献した、あるいは学術会議が発展した期と言われるように奮闘していただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

ありがとうございました。(拍手)

○山極会長 私が言うべき賛辞がいっぱい既に用意されているんですけども、私はしっかり大西会長がなされたことを引き継がせていただくということを最大の賛辞といたしまして承諾させていただきます。ありがとうございました。

[年次報告書の報告]

○山極会長 続きまして、社会と科学委員会年次報告等検討分科会委員長、また、第23期副会長の井野瀬先生から、今年度年次報告書の御報告をお願いしたいと思います。

○井野瀬久美恵前副会長 皆様、はらはらドキドキの24期の幕開けでございました。学術会議の顔が決まって本当にほっとしています。先ほど新会長が申されましたように、あす午前に指名がある副会長、そして、各部で決まってくる役員、部長、副部長、幹事の

方々、そして、それを支える体制、みんなで作っていく学術会議という新しい時代が到来したことを心から祝福したいと思います。

私からは手短かに、与えられていた時間をかなり縮めて、皆さんお手元に配布されている日本学術会議活動報告を見ながら、少しだけお話しさせていただきます。

各期は3年でございますが、毎年10月から次の年の9月までの1年間の活動を振り返るのが年次活動報告書です。これは有識者による外部評価の対象にもなりますので、結構、気合いが入ります。皆さんのお手元にあるのは第一編総論ですが、読みやすく、見やすくを心がけて、この体裁になりました。書き手の名前を記し、写真を入れたり、部会等で使用したポスターを入れたり、工夫を凝らしています。

中を見ていただくと、順番に会長、副会長、各部長、それぞれの報告が並んでいます。今期より学術会議若手アカデミーが本格的に始動いたしまして、その報告もでございます。また「特集」には、その期の特徴が出ます。報告書の21ページからが、23期3年間に行った活動のなかで、3年目に特徴的な活動のご紹介です。

更にそれぞれの活動の詳細につきまして第二編に掲載されておりますが、こちらは大部なものになりますので、ホームページをご覧ください。

もう一つ、各期の特徴的活動は課題別委員会という形でも表現されます。課題別委員会として、第23期は15が設置されました。幾つか皆さんの記憶に残るもの、記録に残されているものもございましょう。社会が抱えるその時々課題、特に重要だと思われるものを委員会として立ち上げて、議論を重ねてきました。

その結果が意思の表出という形になりますが、今期の意思の表出は、今のところ、全部で117件が出されました。なかでも特筆すべきは、軍事的安全保障に関する声明並びに報告であり、ゲノム編集技術のあり方も昨今、さまざまに問われているテーマです。

私が本日皆さまと共有したいのは、このスライドです。意思の表出は全117件と先ほど申しましたが、それが最後の半年間、4月総会以降9月末までに81件が出されており、すなわち、今期全体の69.2%が最後の半年間にだされております。更に細かく見ますと、今期最後の3か月、2017年7、8、9月に74件が、すなわち63.2%が集中しております。この集中については、外部評価で「学術会議は提言や報告等々を出すことが目的ではなく、その検証をきちっとやっていただきたい」と常に問題視される部分です。24期、新会長のもとでの新体制、みんなが総力を合わせる体制のもとでは、うまく検証に付すことができますよう、お願い申し上げます。

最後のスライで赤く記したところは、留意点です。広報やフォローアップも含めて、取り組んでいる課題の少しだけ先を読み、その時々議論でリファレンス、参照にされるような提言、報告、声明であってほしいと思う次第です。

皆様が協力してつくられる24期学術会議を、私も連携会員として支えたいと思います。23期から御一緒の先生、本当にお世話になりました。ありがとうございました。新しく24期、25期を務められる先生方、初めましての方もいらっしゃいますが、引き続きど

うかよろしくお願いいたします。この挨拶で井野瀬の報告を終えさせていただきます。
どうもありがとうございました。(拍手)

○山極会長 ありがとうございます。

大変いろいろ重たい宿題を頂いたような気がします。連携会員として大変心強く思っています。よろしくお願います。

ただいまの御報告について何か御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。どうぞ。

○佐藤嘉倫会員（第一部） 佐藤と申します。よろしくお願います。

提言を私も前期に出したんですけれども、一つの考え方としましては分科会で3年間、議論を重ねた結果として提言が出るとなると、7、8、9月になるのではないかということもあると思うんです。途中で出すと、それはまだ未成熟な議論のもとではないかなと思うんですけれども、その点はどう考えればよろしいでしょうか。

○井野瀬久美恵前副会長 御質問、御意見をありがとうございます。そのとおりだと思います。問題は、検証のシステムをどのように次期につなげていくかということにあると思います。会員、連携会員の皆様に読んでいただいている幹事会だよりの最新号にも、そのあたりのことを書いております。3年の中で回すか、あるいは次期にどうつないで検証とするのか、その仕組みを少しわかりやすくしていただければというのが私の希望です。よろしくお願いいたします。

○山極会長 おっしゃるように、提言が最後のところに固まってしまうというのは仕方がないことで、これから、それをしっかり引き継いで検証していくということが必要だと思いますので、よろしく皆さんお願いいたします。

ほかに御質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

[会員の所属部の決定]

○山極会長 それでは、続きまして会員の皆様がどの部に所属するのかを決定していただくことといたします。資料4を御覧ください。各部については、日本学術会議法第11条の規定により、次のとおりとなっております。第一部は人文科学を中心とする科学の分野、第二部は生命科学を中心とする科学の分野、第三部は理学及び工学を中心とする科学の分野です。会員の部への所属については規定のとおり、会員からの申出に基づき総会で定めることとされております。お手元の資料4別紙は、事前に照会させていただいた所属部の御希望に基づき、部ごとに作成した名簿でございます。

それでは、所属部について日本学術会議法第24条第2項の規定により、出席会員の多数決で決定するものとし、採決は挙手により行いたいと思います。この決定について御異議はございますでしょうか。

〔異議なし〕

○山極会長 それでは、この資料4別紙のとおり、御賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。

〔賛成者挙手〕

○山極会長 賛成多数です。出席会員の過半数の賛成が得られましたので、第24期会員の各部の所属は原案のとおり決定されました。ありがとうございました。

以上で本日の議事は終了いたします。意外に簡単だったなと思います。

〔事務連絡〕

○山極会長 最後に、事務局から連絡事項をお願いいたします。

○山本事務局長 それでは、事務局の方から簡単に連絡事項を幾つか申し上げます。

きょうはこの後、6時から総理大臣官邸で日本学術会議会員との懇談会というのがございます。この総会後に適宜、この講堂から御退席いただきまして、順次、バスに御乗車いただきます。バスは4台に分かれて乗車いただきますので、準備ができた方から講堂を出て、1階ロビーに御参集ください。順次、1号車からお乗りいただきますので、職員の指示に従って恐縮ですが、お乗りいただければと思います。一部のバスは隣の新美術館の方におりますので、そこは御協力をお願いいたします。移動の際には忘れずに身分証を必ずお持ちいただきますようお願いいたします。

本日、お配りしました資料はあしたの総会までそのまま、机の上に置いたままで構いません。なお、資料2につきましては最初に申し上げましたとおり、回収いたしますのでお持ち帰りになられませんかようお願いいたします。

次にあしたの予定でございますけれども、あしたは午前10時からここ講堂において総会を開催いたします。議事は副会長3名の方の指名を予定しています。その後、10時半から5階または6階の各部の会議室で部会を開催いたします。議事は部長の選出、副部長、幹事2名の指名、委員会等に所属すべき委員の検討を予定しております。その際には本日の総会における配布資料も御持参くださるようお願いいたします。

その後、16時から各会議室で地区会議、ここで代表幹事、運営協議会委員の選出を行

っていただきます。更に17時からは2階の大会議室で幹事会を開きます。幹事会は、日本学術会議の運営に関する事項を審議するために置かれた機関で、会長、副会長、部長、副部長、幹事、これになられた方16名で組織いたしますので、これらの役職につかれた場合には御出席いただきますようお願いいたします。

以上でございます。

どうもいろいろ御協力いただき、ありがとうございました。

[散会（午後5時09分）]

平成29年10月2日～3日

於・日本学術会議講堂

第175回総会速記録

平成29年10月3日（第二日目）

日本学術会議

目 次

1、開会 午前10時00分	2
1、定足数確認	2
1、会長による副会長の指名及び就任挨拶	2
1、散会 午前10時09分	5

[開会（午前10時）]

○山極会長 皆さん、おはようございます。

昨日は、暗い宇宙に放り出されたような気がしておりましたが、今朝は新しい惑星に足を踏みしめているという実感がございます。

今日は一番大事なことを皆さんに御審議いただきたいと思っております。

[定足数確認]

○山極会長 ただいま、事務局の報告によりますと、本日の出席会員は158名で定足数に達しております。

議事を進めさせてまいりたいと思います。

[会長による副会長の指名及び就任挨拶]

○山極会長 まず、副会長の指名を行いたいと思います。

副会長については、日本学術会議法第8条第1項の規定により、副会長3人を置くと規定されており、それぞれの副会長の選出については、規定により、副会長は会員のうちから総会の同意を得て会長が指名すると規定されております。

この副会長の職務については、日本学術会議会則第5条の規定により、次の3つの事項をつかさどることになっています。

日本学術会議の組織運営及び科学者間の連携に関すること。この用務を担当する方として、第一部の三成美保会員を副会長に指名させていただきたいと思います。後程御挨拶を頂きます。

それから2番目、日本学術会議と政府、社会及び国民等との関係に関すること。これを担当する副会長として、第三部の渡辺美代子会員に副会長を指名したいと思います。

3番目、日本学術会議の国際的対応に関すること。これを担当する副会長として、第二部の武内和彦会員をお願いしたい、御指名をさせていただきたいと思います。

以上3つの事項を踏まえて、それぞれを担当していただく副会長を私の方から指名させていただいて、皆様の同意を得たいというふうに考えます。

それでは、この3名の方をお認めいただきたいと思います、何か御質問は。（拍手）

[異議なし]

○山極会長 早速お認めいただきまして、ありがとうございます。

それでは、第24期日本学術会議副会長については、今名前を読み上げさせていただきます

ました3名の方に決定をいたしました。

それでは、3名の副会長に御挨拶をお願いしたいと思います。

まず三成美保会員から、簡単に御挨拶をお願いしたいと思います。

○三成美保副会長 第一部の三成でございます。

昨日の会長の御挨拶にございましたように、皆さん非常にお忙しい中、この学術会議の今後の発展のために協力していただけるものと信じて、学協会、そして先生方の学者の間の学術の連携を図っていきたいと思います。

どうぞ今後ともよろしく願いいたします。(拍手)

○山極会長 それでは、続きまして第三部の渡辺美代子会員に御挨拶をお願いしたいと思います。

○渡辺美代子副会長 第三部の渡辺でございます。

昨日、会長が皆さんの総意で決まって本当によかったと思っております。

山極会長の準備していない御挨拶は実に立派だと思いましたが、一つだけ心配なことがあります。お忙しい会長を支える副会長体制でどうにかやっていくということで、解釈のしよによっては暇な会員から副会長を選ぶとも解釈できるのですが、三成先生も武内先生も私も非常に忙しいので、そのことだけは申し伝えておきたいと思います。

会長と副会長だけで今までの会長・副会長の任務ができる状態ではありませんので、会員の皆様の御協力をなくしてはできないのは間違いありません。

是非御協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。(拍手)

○山極会長 大変失礼いたしました。

私も昨日申し上げましたように、これは全員体制でやっていくというふうに自認しておりますので、いずれ副会長からいろいろな宛て役が無い込んでくると思いますので、是非お断りにならないように、よろしく願いいたします。

では続きまして、第二部の武内和彦会員から御挨拶をお願いします。

○武内和彦副会長 武内でございます。

昨日、山極会長が選出された際には、山極先生、大変お気の毒だというふうに私は同情を申し上げておりましたが、まさか私にこのような職が降ってくるとは思いもよりませんでした。

私は国連大学の副学長等を経験して、国際的なネットワークがあるということで、何とかやれということを言われたわけでございます。

今、ICSUと社会科学系のISSCの統合という、日本学術会議は初めから統合され

ているわけでございますけれども、国際的にそうした大きな動きがある中で、この役割を任命されたということは大変重い責任を感じておりますけれども、私なりの経験を生かしてやっていきたいと思っておりますので、会員の先生方の御支援をよろしくお願ひしたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。（拍手）

○山極会長 ありがとうございます。

それでは、以上で本日の議事は終了いたしました。

最後に事務局から御連絡を差し上げます。

○山本事務局長 それでは、この後の連絡事項を申し上げます。

なお、会長はここで所用によりまして京都にとんぼ返りされますので。

まずこの後の予定でございます。

午前10時半から5階または6階の各部の会議室におきまして、部会を開催いたします。部長の選出、副部長、幹事2名の指名、委員会等に所属すべき委員の検討が議事でございます。

その後、16時から各会議室で地区会議が予定されております。ここでは代表幹事、運営協議会委員の選出を行うこととなります。

その後、17時から2階の大会議室におきまして幹事会を予定しております。幹事会は、日本学術会議の運営に関する事項を審議させるために置かれた機関、いつも総会をやっているわけにはいきませんので、この幹事会で主なことを決めざるを得ないんですけれども、こちらに会長、副会長、部長、副部長、幹事になられた方16名になりますけれども、その役職に就かれた方は、御出席いただきますようお願い申し上げます。

各部会で議題となりました委員会委員の承認等についての議事を予定しております。

以上が本日の予定でございます。

明日でございますが、併せてお知らせいたしますが、明日は午前10時から5階または6階の会議室で分野別委員会を開催するということとなります。各分野別の委員会の委員に決定された方は御出席をお願いいたします。役員を選出、分科会の世話人の決定等が議事でございます。

明日の13時30分から2階の大会議室で幹事会を改めて開催して、今後の日程調整等の議事を予定しております。

以上でございますが、会議室の場所等については、お手元の資料の参考資料4の方に書いてございます。また御不明な点がございましたら、事務局の職員にお問い合わせいただければと思ひます。

以上でございますが、席上に資料を残された場合、こちらで廃棄させていただきますので、御入り用のものはお持ち帰りくださいますように、お願ひいたします。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

[散会（午前10時09分）]